

哲学・宗教・古典

B-1. アリストテレス《自然学著作集》1580年版

ARISTOTELES. Philosophiae natvralis libri omnes, Ioanne Argyropylo Byzantio, et Francisco Vatablo interpreteibus. Coloniae Agrippinae, apud hæredes Arnoldi Birckmanni, 1580.

¥220,000

4to, two volumes bound in one, pp. (12), 320; 398; oval woodcut Jesuit device to each title-page; the second gathering of the preliminaries to the initial volume loose and creased, mild browning and faint waterstaining throughout, lower corner frayed in the last leaves of the second volume; bound in contemporary limp vellum, darkened and soiled, manuscript paper title label to the spine, lower half of spine missing, upper joint and lower hinge cracked, lower extremities of the rear cover worn; contemporary manuscript marginalia and interlinear annotations throughout (except Meteorologicorum Lib. IV.) Cranz-Schmitt \*108.643.

アリストテレスの自然学に関する諸著のラテン訳集成版。書誌的には二冊からなり、第一巻に『自然学』と『天体論』、第二巻に『生成消滅論』・『気象論』・『靈魂論』・『自然学小論集』を収録。第一巻の二編と『靈魂論』はアルギュロプーロス訳、残りはフランソワ・ヴァターブルの手になります。アルギュロプーロスのアリストテレス新訳はルネサンス期に広く流布したもので、彼が訳さなかった自然学の論著を、後年コレージュ・ド・フランス初代ヘブライ教授に就任するヴァターブルが翻訳して補ったラテン語著作集は、アンリ・エティエンヌの手で1518年に刊行されています。

ケルンのビルクマンが刊行した上掲四折版は、タイトルに1580年刊とあるものの、第二巻末に置かれた印刷者の刊記は1579年と一年先行します。各冊のタイトル頁にはイエズス会の標章が木版で掲げられており、このアリストテレス版本がケルンなどこの地域のイエズス会学院でテキストに用いられたことが推定されましよう。

上掲本には『気象学』第四巻を除く全編にわたり同時代の手蹟で無数の書込みが見られ、余白には要約が、行間には語釈が細字で記されています。これらの講釈が当時のいかなるアリストテレス解釈に属するのか、例えばイエズス会学院におけるアリストテレス教育との関連など、恐らく同一版で同種の書入れ本は他にも現存するはずであり、比較考究は今後の研究課題となりましよう。同時代のヴェラム装丁に損傷が少なからずあるほか、本文用紙に軽微な水染みと変色が見られます。

B-2. アルノー／ニコル《論理学》初版

ARNAULD, Antoine, and Pierre Nicole. La Logique ou l'art de penser: contenant, outre les regles communes, plusieurs observations nouvelles propres à former le jugement. A Paris, chez Charles Savreux, 1662.

¥440,000

12mo, pp. 473, (5) Table des chapitres, (1) privilège, (1) errata; woodcut vignette to the title-page, typographical headpiece at the beginning of each part, tiny rusthole to leaf c1 (praefatio) with minor loss to a few letters (still legible), mild browning throughout, occasional light foxing and spotting, minor thumbing to the title-leaf, but a good sound copy, bound in contemporary calf, rubbed, joints and corners restored; a few early ownership inscriptions to the title (partly erased). Cioranescu 8112; En Français dans le texte 100; cf. Rochebilière 1115-7.

近代論理学を代表する名著。しばしば「ポール＝ロワイヤルの論理学」と呼び慣らわされるのは、著者であるアントワーヌ・アルノーとピエール・ニコルとがジャンセニスムの牙城であるポール＝ロワイヤル僧院を拠点としたことによります。1643年ここに学院が設けられ教育活動がはじまると、その教科書としてクロード・ランスロは語学書を執筆し、さらに1660年にはアルノーとの共著として『一般・理論文法』を公刊。その二年後に出版された『論理学』も同様に学院での教育を念頭においたものでした。

「考える技術」という副題を持つこの著作は、論理学の標準的な教科書として十九世紀末まで命脈を保つ

ことになります。序論に続く本文は概念・判断・推論・秩序付けという四つの思惟作用に応じて四部に分かれ、概念の本質と起源にはじまり、命題論、演繹、科学的知識についての考察が展開されています。アルノーとニコルはデカルト哲学を基礎としながらも、判断と命題の形成とを同一視している点などで独自性を示しています。

初版は十二折版。複数の異発行本があり、クローダンのロシュビリエール蔵書目録によればシャルル・サヴルーを版元として刊記に示したものでもタイトル頁の木版ヴィニエツトが (1) 信仰・愛徳・希望を携えた宗教の寓意図、(2) 怪人面の二種があり、さらに (3) 刊記がサヴルーではなく、ジャン・ド・ロネーとなっているものが確認されます。上掲本はサヴルー刊ながらヴィニエツトはこれらと異なり、果物を盛った器を描いた木版。

パリ国立図書館は 1662 年版を五部所蔵し、うち二部がサヴルー刊、二部がド・ロネー刊、残る一部はジャン・ギニャールの名を刊記にあげるもの。巻末に見られる国王允許にはこれら三名に加えてギヨーム・デプレも版元書肆として列挙されていますので、デプレ刊の異発行本も存在する可能性があります。初版に関しては所在が確認されません。

なおこれらの十二折版のほか、刊記にギニャール、サヴルー、ド・ロネーの三名を列挙した同年の八折版も存在し、1965 年フロンマンが写真複製版を刊行しましたが、これは明らかに偽版。十二折版巻末に印刷される十六カ所の誤植訂正のうち、最後の六カ所の修正が八折版の本文に組み込まれています。

同時代の牛革装、背などに補修。

### B-3. 《英訳聖書》ビショップ聖書 1585 年版

[Bible. English. Bishops' version] The Holy Byble, conteining the Olde Testament and the Newe. Authorized and appointed to be read in churches. Imprinted at London, by Christopher Barker, 1585.

¥1,650,000

*Folio (400 x 263 mm), leaves (17), 536 Old Testament, 137 New Testament; without the initial and the last blank leaves as usual; text printed in black letter in double column; general title printed in red and black within a woodcut border (McKerrow & Ferguson 203), the border repeated in black on the title-pages to the Psalter and the New Testament, Almanack and Calendar printed in red and black, another woodcut border (McKerrow & Ferguson 158) to the title-page of the Apocrypha, full-page woodcut of the Garden of Eden (see McKerrow & Ferguson 199) at the end of the preliminaries, woodcut map of the Holy Land and large woodcut map of St. Paul's peregrination to the New Testament, two large woodcut Royal coat of arms as tail pieces, numerous large and small woodcut initials; general title-leaf with margins trimmed and mounted, lower corner torn from the initial leaf of the Genesis missing part of the last 4 lines on outer column both on recto and verso, a vertical closed tear taped on recto of the same leaf (touching letters in the remaining last 15 lines), leaf 3Q6 with small paper flaw missing several letters, gathering M of the New Testament washed (text partly rather faded but still legible), marginal repairs to the initial four leaves of the last gathering, the last leaf inlaid; some marginal tears and repairs, occasional light thumbing and soiling, but still a very good attractive copy in late nineteenth century calf on bevelled boards (by Andy Grieve of Edinburgh with his stamp on front fly-leaf), covers and spine panelled in blind, morocco title label to the spine with letters in gilt, rebacked, with the original spine laid down, rubbed, corners worn, some light scratches to covers, marbled endleaves; manuscript ex-libris of Rebeckah Evance dated 1736 on flyleaf, scattered early ownership inscriptions of John Evance, James Longwell and Richard Longwell. STC 2143; Herbert 188.*

聖書の本文を英語に翻訳する試みは古英語の時代から存在しますが、旧約・新約全体の翻訳は十四世紀末、ジョン・ウィクリフとその協力者たちの手によってはじめて成されています。その後約一世紀半ばを経てウィリアム・ティンダルがヘブライ語・ギリシャ語原典に基づき旧約モーゼ五書とヨナ書、ならびに新約全篇の画期的な英訳を行うと、マイルズ・カヴァデイルが旧約の残りを補い、この全訳はさらなる改訂を経たのちに「大聖書」として 1539 年に上梓されました。これは英国における最初の公認英訳聖書となっています。

女王メアリーのカトリック回帰により、多くのプロテスタントが英国から大陸に逃れ、その中心地のひとつであったジュネーヴでは 1560 年新たな翻訳が生み出されました。ジュネーヴ訳はエリザベス朝英国でも夥しい数の版が刊行され広く普及しましたが、エリザベス女王はこれを公認することがありませんでした。大聖書に代わるべき翻訳として 1568 年に初めて公刊された「主教聖書」は、大主教マシュー・パーカーの主導のもとに進められた改訳であり、国教会の主教たちが分担して大聖書本文の改訂にあたりました。独訳やラテン訳からの重訳であるカヴァデイルの旧約は原典訳に置き換えられたほか、新約にも多くの斧正が加えられています。

主教聖書は初版刊行以後、二折版が 1602 年まで十種、四折版は 1584 年まで七種の再版が登場しています。

ハーバートによれば 1569 年の最初の四折版では主として旧約に、1572 年の二折版第二版では新約に更なる改訂が施され、これらの本文が後の版に継承されました。また恐らく旧約詩篇の原典訳が直ちに教会での朗誦に馴染まなかったためか、二折版第二版においては大聖書の詩篇本文も併せて収載され、さらに後の版では大聖書の詩篇のみが収録されるようになりました。

ジュネーヴ訳が席捲する出版市場が大きく変わることは無かったとはいえ、ほぼ数年置きに必ず主教聖書の新版が刊行された事実からは、公認聖書としての需要が常に途絶えることが無かったことが伺われます。1587 年七月の大主教ホイトギフトの書簡は、公認聖書が破損している、あるいはまだ備えられていない教会が少なからずあり、大きな教会のために二折版を、小さな教区には四折版を備えるべく再版が進められたことを明らかにしています。当時の人々が読んだ聖書はジュネーヴ訳だったにせよ、教会で信者が耳にしたのは主教聖書でした。1604 年に新国王ジェイムズが欽定訳の勅命を下したため、主教聖書の再版は終りを告げましたが、欽定訳の底本となったのは主教聖書の最終 1602 年版ともいわれます。

なお公認聖書を示す文言が標題紙に登場するようになったのは、二折版第三版 (1574) で、"Set fourth by auctoritie" の一句が含まれています。第六版 (1584) では "Of that Translation authorised to be read in Churches" に変わり、1585 年の第七版からは "Authorised and appointed to be read in Churches" という欽定訳にも受け継がれる表記に固定されました。この 1585 年二折版はまた、旧約詩篇に関し主教聖書本来の原典訳を収録しているのが特徴です (前後の版では大聖書訳)。

初期の英訳聖書はいずれも当時よく読まれたためでしょう、汚損や欠落がつきものです。教会での使用を目的として刊行された主教聖書も、完本はもとより甚だ稀れ。上掲本は旧約創世記の本文第一葉の右下隅に欠損があるものの、欠落葉はありません (ただし最初の折丁と最後の折丁とに含まれる白葉は失われています)。巻頭の標題紙と巻末最終葉とは余白が切除され貼込み、その前後数葉にも余白に補修。新約の折丁 M の六葉はかつて洗浄が施されたため、一部の本文は印字が薄く辛うじて判読できる程度になっています。これらの点を勘案しても、保存状態は良好といえるでしょう。

十九世紀後半の牛革装、背に補修。1736 年の日付がある手書きの蔵書票が見返しに見られるほか、十七世紀後半と思われる旧蔵者の署名が散見します。

#### B-4. ブルーニ《対ゴート戦史》1471年ジャンソン版

BRUNI, Leonardo. De Bello italico adversvs gotthos. [Venice], Nicolas Jenson, 1471.

¥1,980,000

*Large 4to (286 x 202 mm), 64 unnumbered leaves; roman type, 32 lines; capital spaces; bound in late eighteenth century vellum on boards, leather title label to the spine with letters in gilt, light soiling to the covers, lower corners bumped; occasional mild browning, light waterstaining to lower margin, some tiny round wormholes in the last gathering (one touching letters but not affecting legibility), sporadic mild thumbing, otherwise a very nice copy with wide margins, signatures in manuscript remain on ca. 15 leaves (partly cropped); from the library of Diego Pignatelli di Cavaniglia with his bookplate. Hain \*1559; Pellechet 1113; Proctor 4080; Essling 219; BMC V, 170; GW 5601; Goff B-1235; Polain (Supplément) 4256; BSB-Ink B-938.*

イタリア・ルネサンスを代表する人文主義者のひとり、レオナルド・ブルーニ晩年の著書。ブルーニは 1370 年頃トスカーナ地方のアレッツォに生まれ、若くして両親を失ったのちフィレンツェ大学に進みます。人文学の泰斗コルッチョ・サルターティの薫陶を受けたのもこの時期です。その後ブルーニはローマに出て教皇イノケンティウス六世の秘書となり、約十年にわたり歴代教皇に仕えています。1414 年フィレンツェに戻ると主著の一つ『フィレンツェ史』の執筆に着手、1427 年にはフィレンツェ政庁の書記長に任命され、1444 年にこの世を去るまでその地位にありました。

ルネサンス期のイタリアにギリシャ語学を齎したマヌエル・クリュソロラスが、サルターティの招きに応じてフィレンツェを訪れたのは 1397 年のこと。ブルーニはその筆頭弟子にあたります。古典ギリシャ文献の翻訳家として、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』や『政治学』の新訳、プラトンの対話篇、デモステネスの弁論集など多数の作品を手掛けたなかには、カイサリアのバシレイオスによる一書簡も含まれます。ギリシャ文芸の学習をキリスト教徒の若者たちに奨励した教父の書簡を翻訳した目的は、教会の保守層から批判を受けた師サルターティを擁護することにはありましたが、ブルーニ訳は夥しい数の写本・刊本で伝存し、当時の人々の強い支持が伺われます。

しかしブルーニの果たした最大の貢献と目されるのはその歴史研究です。『フィレンツェ史』は古代ギリシャのリヴィウスやタキトゥスの歴史記述を範としながら十五世紀初頭に至る都市の歴史を克明に描き出し、近代的な歴史記述の祖と見做されます。古典に精通したブルーニはラテン語文献で空白のまま残されている時期に関する史書をギリシャ語文献に依拠して執筆しており、『対ゴート戦史』もその一つ。

ブルーニは当時ほとんど知られていなかったカエサリアのプロコピウスによる『戦史』第五巻から第七巻に基づきながら（彼が用いた原典写本はラウレンツィアーナ図書館の Laur. 69.8 と同定されます）、紀元五世紀末から六世紀前半のゴート人によるイタリア侵略と東ローマ皇帝ユスティニアヌスによる回復の歴史を描き出しました。著者は同時代の証言としてプロコピウスを尊重しつつも批判的な視点を欠かさず、他の史書も援用しています。プロコピウスに欠けていた史書としての様式を整えつつ、ローマ帝国から中世イタリアに視点を置き換え、イタリアが形成されていく起源を示した点は画期的といえるでしょう。

本書はまた単なる歴史叙述にとどまらず、1439年にはじまったフィレンツェ公会議の精神をも体現しています。崩壊した西洋世界を東ローマ帝国が救ったのが紀元六世紀の史実であるならば、危機に瀕している今日のコンスタンティノープルに西方教会は手を差し伸べるべきだというメッセージがこの史書の底流に流れているのは、枢機卿ジュリアーノ・チェザリーニに献呈された事実からも明らかです。

ブルーニの『対ゴート戦史』は著者生前から「単なるプロコピウスの翻訳に過ぎない」と批判されたばかりか、後年には剽窃の疑いすらかけられています。今日ではもはやそうした主張は退けられて然るべきでしょう。1441年の公刊以降数多くの写本で流布したばかりでなく、印刷術がイタリアに到達して数年後の1470年にはフォリーニョのヨハン・ノイマイスターが鉛槧に付しています。

フランス人ニコラ・ジャンソンの手になる1471年版は、初刊本の翌年に上梓されたもの。出版地は記されていませんがヴェネツィア、ジャンソンがこの地でヨハネス・デ・スピラに次ぐ第二の印刷所を設けたのは1470年のことで、1480年にこの世を去るまでに印刷した刊本は百点弱に及びます。ジャンソンはオート・マルヌのソムヴォワール出身。トゥールで貨幣鑄造に従事していたことが知られ、金属加工の専門家だった点はグーテンベルクとも共通します。

ジャンソンの名前を今日も広く知らしめているのは、その優美なローマン体活字です。「ジャンソンのローマン体は彼が製作して以来常に、誰もが認めるローマン体活字の模範であり、今日も繰返して模倣されるが、決して肩を並べられたことはない」（アップダイク）。私家版運動に及ぼした影響も大きく、エメリー・ウォーカーがデザインしたダヴズ活字もこれに範をとったものでした。ジャンソンは後年ゴシック体も用いていますが、本書はその美しいローマン体で印刷されたジャンソン最初期の刊本。

製本は恐らく十八世紀後半のヴェラム装、巻末にかけ僅かな虫損がみられますが、保存状態は総じて良好。余白が広く、印刷時に記された手書きの折丁記号が十五葉で残っています（一部は製本の際に生じた欠損あり）。見返しにはディエゴ・ピニャテッリ・ディ・カヴァニリアの蔵書票。ピニャテッリは教皇イノケンティウス十二世などを輩出したナポリの名家。ディエゴの著書として、この教皇に関する図像・文献の目録（1902）が残されています。

## B-5. ディドロ《哲学断想》初版

DIDEROT, Denis. *Pensées philosophiques*. A la Haye, aux dépens de la compagnie, 1746.

¥330,000

12mo, engraved frontispiece, pp. (2), 136, (12) table des matières; errors in imposition in gathering C and D present, leaf A2 and H2 uncanceled; title with typographical vignette of four heads, the top one facing right; edges slightly dusty, occasional crayon scorings, but a good sound copy in contemporary mottled calf, spine gilt in compartments, morocco title label on spine, lightly rubbed and worn. Quérard II. 554; Cohen-de Ricci 305; Cioranescu 24143; Tchemerzine-Scheler II. 919 (a); Adams PD3.

ディドロが独自の思想家としての出発点を示した最初の著作。刊記にはハーグとありますが、パリのロラン・デュランが上梓。第五十三章に含まれるジャンセニスト嘲笑ゆえに、高等法院から禁書の命令が下されています。この六十二章からなるアフォリズム集は無神論に対する理神論の優位を示し、懐疑にもとづく批判的理性と自然宗教への賛辞を結論としています。

『哲学断想』の1746年版には本文が百三十六頁からなるものと、六十頁からなるものの二種があり、前者が初版と目されます。チェメルツィーヌは初版本の中でも、本文の pp. 31-34 ならびに pp. 43-46 に組版のミスがある（p. 32 と p. 33 とが逆に割付けられており、pp. 44-45 も同様）ものを「稀覯な初刷本」とし、ニコローズもその孫引きに甘んじていますが、これは恐らく誤り。確かに初版本は割付けミスの有無によって二種に区別され、これらは酷似しているものの、組版を異にします。仮に割付けミスの無いものをA種、チェメルツィーヌの「初刷本」をB種とすると、(1) A種は本文に二葉の差替が確認されるのに対して、Bにはなく、Bの本文はAの差替後の形態と同一。したがって、割付けミスのないA種がB種に先行するものと考えられます。二種を区別する顕著な特徴の一つとして、(2) タイトル頁のヴィニェットは四つの人頭 (Fournier, *Manuel typographique*, Tome 2, 342-343) を上下左右に配した図柄で、上部のそれはA種で顔が左向き。B種は四つともAと逆を向いており、上部の顔は右向き。本文のみならず、倒れかかった「迷信」の顔から仮面を

引き剥がす「真実」の女神を描いた銅版口絵もまたAとBでは別版であり、(3) 口絵のサイズはAが 101 x 58 mm、Bは 98 x 58 mm。図案も酷似してはいますが、背景の雲や岩の形状、「真実」の首あたりの描写に顕著な差異が見られます。

上掲本はB種に相当するもの。二種の「初版」は書誌的には異版と考えられますが、B種を以って偽版と即断するのも困難であり、今後の研究が俟たれます。アダムズはA種 (PD2) の所在としてパリ国立図書館本 (Rés.R.2083) など二冊を記す一方、B種 (PD3) については数十冊の所在を示しているものの、これは明らかに不正確。A種は坊間でも決して稀覯ではなく、日本でも二部の所在が確認されます。

#### B-6. ディドロ《聾啞に関する書簡》初版

DIDEROT, Denis. *Lettre sur les sourds et muets. A l'usage de ceux qui entendent & qui parlent. Avec des additions.* S.l., s.n., 1751.

¥396,000

*12mo, pp. x, 400, (2) title-leaf to the Additions, (1) errata, (11) index; with five leaves of engraved plates; leaves A2, D4 and L5 cancelled; a very good sound copy in contemporary mottled calf, spine gilt in compartments with red morocco title label, neatly rebacked with the original spine laid down, corners restored; early printed bookplate of Pierre-Magd. Saguez de Breuvery and with his inscription on the front pastedown, ownership inscription of C. R. Jardel on title. Quérard II. 554; Tchemerzine-Scheler II. 931; Cioranescu 24113; Adams LH4.*

初版第三発行。ディドロの少なからぬ著書と同様に、『聾啞書簡』にも複数の発行形態があることが知られ、第一発行は 1751 一月二十日付けの書簡を巻頭に置き、続く本文は p. 241 まで、残る十一頁には索引を収録し、銅版図三葉が加えられています。この第一発行本はかなりの部数が現存しますが、これに対してディドロの跋文、“L'Auteur de la lettre précédente” 六頁が追加された第二発行は稀れ。

第三発行本には、約百六十頁に及ぶ「補遺」が加わり、その結果本文は p. 400 まで増えているばかりでなく、銅版図二葉も追加されました。とはいえ本文 p. 240 までに見られる三葉の差替えは第一発行と共通しており、ここまでは同一の印刷でしょう。第一発行本においては、本文最終頁 (p. 241) と索引十一頁は六葉から成る折丁を構成していましたが、第三発行ではこの折丁から印刷を異にし、p. 242 から「補遺」が掲載されています。通常の第三発行本には索引が見られません。

上掲本にはしかし、「補遺」に続いて索引など七葉が含まれています。まず “Additions pour servir d'Éclaircissements à quelques endroits de la Lettre sur les Sourds & Muets” と題したタイトル葉一葉が見られますが、これは（第一発行本の購入者を対象に）「補遺」が単独で発行された際の標題紙にあたります。残る六葉は折丁 X を構成しており、第一葉表に「誤植訂正一覧」、第一葉裏から第六葉裏まで索引を掲載。索引は「補遺」のテキストまで対象とはしていないため、恐らく第一発行のそれと同内容と思われます。一方、誤植一覧には「補遺」の誤植も含まれています。アダムズは誤植訂正・索引の計六葉を含む第三発行本として、ケンブリッジ大学図書館の R・A・リー旧蔵本をあげるのみ。

「補遺」タイトル葉が含まれることから、上掲本が本来第一発行本であり「補遺」を加えて製本したものとする可能性も残りますが、誤植一覧が見られることは、むしろ初版本の発行形態としては遅い時期に属するものと考えられます。いずれにせよ興味深い書誌的特徴を持つ一冊といえましょう。

#### B-7. ディドロほか《哲学・文芸小品集》初版

DIDEROT, Denis, et al. *Opuscules philosophiques et littéraires, la plupart posthumes ou inédites.* A Paris, de l'imprimerie de Chevet, 1796.

¥528,000

*8vo in fours (188 x 111 mm), pp. (16), 270, (1) editor's postscript, (1) blank; a very fine copy, printed on 'papier vélin fin' in large format, bound in contemporary mottled calf, flat spine gilt in compartments, green morocco title label on spine, covers panelled gilt, edges gilt. Tchemerzine-Scheler II. 971(g); Cioranescu 24182 & 61175; Adams SC1.*

ジャン＝バティスト・スアールとシモン＝ジェローム・ブールレ・ド・ヴォーセルが編纂した論集。計八編を収録し、ディドロの『ブーガンヴィル航海記補遺』*Supplément au voyage de Bougainville* はこれが初出にあたります。ブーガンヴィルによるタヒチの「善良なる未開人」に関する報告を下敷きとして、西洋の文明社会を指弾したこの作品はディドロの主著に数えられるもの。彼の作品としてはもう一つ、無神論の立場から道徳を批判した『哲学者と元帥夫人との対話』*Entretien d'un philosophe avec la Maréchale de Broglie* も含まれますが、こちらは 1777 年刊行の *Pensées philosophiques en François et en Italien* が初出。

その他の収録作品は、シャトレ夫人の *Réflexions sur le Bonheur*, トマの *Anectotes sur le Roi de Prusse*, ネットケルの *Du Bonheur des Sots*, デュマルセによる *Le Vrai Philosophe*, ガリアーニの対話編 *Les Femmes* に匿名の *Le Bon Homme*。

1796年に刊行されたこの『小品集』には二種の版があり、通常見られるのは十二折版。同一の組版で割付けの異なる八折(半裁)版もあり、これについてはハーフ・タイトル葉の裏頁に“*Il a été tiré quelques exemplaires de cette Édition format in-octavo, sur Papier-vélin*”と明記されています。上掲はこの八折上質紙本に相当しますが、“*quelques*”がどの程度の稀少性を示すかについては分明ではありません。

#### B-8. シャフツベリー 《道德哲学原理》仏訳初版

[DIDEROT] SHAFTESBURY, Anthony Ashley Cooper, Earl of. *Principes de la philosophie morale; ou essai de M. S\*\*\*. Sur le merite et la vertu. Avec réflexions.* A Amsterdam, chez Zacharie Chatelain, 1745.

¥264,000

*Small 8vo, pp. xxx, 297, (1) blank, (9) table des matières and errata, (1) blank; leaves \*3, F3 and K7 cancelled as usual; two leaves of engraved plates and three engraved vignettes (all by Fessard after Durand); very faint waterstaining on upper margin throughout, title with light stain by damp on fore-margin, else a good sound copy in contemporary calf, covers with gilt panels in triple fillet, flat spine gilt in compartments, red morocco title label on spine with letters in gilt, edges gilt, lightly rubbed, corners and top of spine worn.* Tchermzine-Scheler II. 916; Cioranescu 24189; Cohen-de Ricci 305-6; Adams PY1.

ディドロの手になる自由訳。原著はシャフツベリーの『徳性についての研究』 *An Inquiry concerning Virtue* で1699年初刊。ただしこの1699年版は著者の許可なくジョン・トーランドが上梓せしめたもので、シャフツベリーはその論文集 *Characteristicks of Men, Manners, Opinions, Times* (1711) の第二巻にこの研究を収録しています。

無名のディドロは売文の徒としてスタンヤンの『ギリシャ史』やロバート・ジェイムズの医学辞典など英語文献の翻訳を手掛けており、書肆ル・ブルトンからチェインバーズの百科辞典の翻訳を持ちかけられたのもこの頃のことです。この翻訳構想が『百科全書』を生み出す契機となったのは有名ですが、シャフツベリーの翻訳もまたディドロに大きな影響を与えており、翌年刊行された *Pensées philosophiques* ではことに顕著です。巻頭の書簡と序論もディドロの執筆であり、前者の末尾にはそのイニシャルが見られます。

#### B-9. エラスムス 《格言集》1536年版

ERASMUS, Desiderius. *Adagiorvm chiliades.* Basiliae, ex officina Frobeniana, 1536.

¥400,000

*Folio, pp. (72), 1085, (1) Erasmus Lectori, (1) register and colophon, (1) woodcut device; large Froben's woodcut device on title-page and the last page, woodcut medallion portrait of the author on verso of title, some woodcut initials in text; upper margin of the title-leaf restored, a couple of tiny wormtracks to the initial quarter of text (one marginal, another affecting text), some tiny round wormholes to the last half (touching letters, one growing to a short ditch in ca. 40 leaves), occasional faint marginal waterstaining, initial few leaves lightly dustsoiled, the last leaf frayed and chipped at fore-margin; bound in contemporary calf over wooden boards, covers panelled in blind, traces of catches and clasps, lightly rubbed, corners worn, rebacked with new endleaves; sporadic contemporary manuscript scorings and marginalia, a few library stamps.* Van der Haeghen-Lenger II. 296 (E.102); Bezzel 80; VD16 E1941.

エラスムスが編んだラテン語格言集は西暦1500年パリ初刊。ギリシャ・ローマの古典から採録した格言八百十八項を解説したこの集は、ほどなくラテン初学者の必携となり度々版を重ねますが、エラスムスも増補改訂の手を緩めることなく、初版の四折版七十葉余からついには二折版一千頁を超える大著となっています。

この1536年版は『格言集』の決定版として知られるもので、四千百五十一項を収録。三年前、同じくバーゼルのフローベンから大增補版を上梓したエラスムスはこれを最終版とするつもりでしたが、新たに幾つかの項目を加えた再版が1536年三月に刊行されました。エラスムスは四ヶ月後にこの世を去り、1536年版はエラスムス自身が加筆した生前最後の版となっています。

エラスムスがギリシャ・ローマ文学の知識を惜しむことなく注ぎ込んだ『格言集』は、アルプス以北の学徒の古典への渴望を満たすこととなりました。原典が容易に入手しがたい当時であって、『格言集』は古典と人文主義の宝庫として重用されることになりました。また、ことに1515年版以降、箴言の解説とは言い難いほどの長大な論説が加えられ、エラスムスならではの教会と社会への批判が盛り込まれたことも、『格言集』

がエラスムス屈指の著作に数えられる大きな理由となっています。

同時代の牛革装。背に補修。本文に虫損あり、幸いほとんどの頁では判読可能な軽微な損傷に留まっています。タイトル葉上部余白に補修。

#### B-10. ナジアンゾスのグレゴリウス《講話集》初版

GREGORIUS NAZIANZENSIS. *Orationes lectissimae* xvi. Venetiis, in aedibus Aldi, et Andreae Soceri, mense Aprili, 1516.

¥836,000

*8vo, leaves (7), 311, (1); lacking the last blank leaf of the preliminaries; woodcut Aldine device to the title and the terminal leaf, text in Greek, a few headings printed in red; lower margin of title-leaf reinstated, upper corner of L1 and L4 repaired, occasional light thumbing and soiling, but a very good copy; bound by Lewis in citron straight-grain morocco, elaborately panelled in blind with the Aldine device gilt to the covers, title lettered in gilt to the spine (rubbed and worn, top of spine restored); from the library of Henry Drury, with his inscription and manuscript note to upper corner of the fly-leaf. Legrand 50; Renouard pp. 75-6; Ahmanson-Murphy 144; Adams G1157; EDIT16 CNCE 21740.*

紀元四世紀後半に活躍したナジアンゾスのグレゴリウスは、皇帝テオドシウス一世の信任厚く、コンスタンティノポリスの主教として紀元 381 年の公会議では議長を務めましたが、途中で辞任を余儀なくされ故郷ナジアンゾスに帰っています。バシレイオス、ニュッサのグレゴリウスと並んでカッパドキアの三大教父に数えられるこの主教の最大の功績は正統派教会を護持し、三位一体を巡る当時の論争に決着をつけた点にあり、正教会で今なお「神学者」の称号を付して讃えられるのはその故です。

グレゴリウスの現存する著作としては晩年の詩作や書簡もありますが、筆頭にあげられるのは四十五篇にのぼる講話でしょう。かつてカエサレアとアテネの学院で修辞学の研鑽を積んだグレゴリウスは、その技巧を惜しみなく駆使しながら説得力に満ちた議論を展開しています。特に紀元 380 年コンスタンティノポリスにおける三位一体論に関する五つの講話（第二十七篇から第三十一篇）は有名。

ギリシャ語原典の初刊本にあたるこのアルドゥス版は、この三位一体論五篇に加えて「ユリアヌス論駁」（第四・第五篇）、神の顕示、光、洗礼といったキリスト教神学の根幹に関わる考察（第三十八篇から第四十篇）、復活祭とペンテコステの講話（第四十五・四十一篇）、そして少年時代からの盟友であったバシリウスならびにアタナシウスの追悼講話（第四十三篇・第二十一篇）など計十六篇を収録しています。グレゴリウス講話集の古写本には典礼を主題とする十六篇の選集が数多く伝存していますが、アルドゥス版はもとより内容を大きく異にします。

アルドゥスは 1504 年にグレゴリウスの詩選集 *Carmina* を希羅対訳で刊行していました。この講話集は 1516 年、アルドゥス・マヌティウスがこの世を去った翌年の刊行で、義父アンドレアス・トレサーニが上梓。編者はアルドゥスの多くのギリシャ語刊本を手懸けたマルクス・ムスールス。そのラテン語献辞は当時フランスのヴェネツィア大使として赴任していたジャン・ド・パンに宛てられています。

上掲本は古典刊本の傑出したコレクションを集めたことで知られるヘンリー・ドルーリー (1778-1841) の旧蔵。父ジョゼフはパブリック・スクールの名門ハロー校で二十年にわたり校長を務め、その教育水準を飛躍的に高めたことで有名。ヘンリーはハロー校からイートン・コレッジに進み、ケンブリッジで学位を得たのち母校ハローで教鞭を執りました。教え子の一人、詩人バイロンとは後年まで親しく文通を続けています。当時優れた古典学者として知られ、ロクスバラ・クラブの創設会員だったことからドルーリーの古書に対する高い見識は推察しうるでしょう。彼の蔵書の大半は 1827 年二回の競売に付され、残りは彼がこの世を去った 1841 年に売却されました。このグレゴリウス初刊本は 1827 年二月十九日の第一回競売、461 番。見返しにはドルーリーの特徴的な書込みが加えられています。

黄色のモロッコ革製本は十九世紀初め、名工として知られたチャールズ・ルイスの手になるもの。前付最終葉（白紙）は切除されていますが、ルヌアールによればしばしば欠落しているタイトル葉は現存。タイトル葉ならびに最終葉にアルドゥスの木版商標「錨に海豚」が見られます。

タイトル葉下部余白に補修、製本は背などに補修。

#### B-11. ヘーゲル《精神現象学》初版

HEGEL, Georg Wilhelm Friedrich. *System der Wissenschaft. Erster Theil, die Phänomenologie des Geistes.* Bamberg und Würzburg, bey Joseph Anton Goebhardt, 1807.

¥1,540,000

8vo, pp. (8), xci, (3) errata, 765, (1) printer's imprint; leaves \*4, \*\*1 and O4 cancelled as usual (stubs visible), the divisional title in the second state (Nicolin's "Zwischentitel B", cancelland leaf A1 cut away); all published; bound without the publisher's advertisement leaf at the end of the volume, in contemporary marbled boards, manuscript title label to the spine, rubbed and faded; light waterstaining to the upper margin, occasional light foxing and spotting.

ヘーゲル最初の主著。単なる感覚的对象意識から絶対知へと意識が進む過程を分析した『精神現象学』はドイツ近代哲学の傑出した名著に数えられ、カントの批判書に優るとも劣らないその影響力は今日もなお衰えることがありません。

1801年イェナ大学で私講師となったヘーゲルは、1805年には員外教授に迎えられました。彼はこのイェナ期に自らの哲学体系を構築することに全力を注ぎ、1805年冬には書肆グズハルトと著書出版の契約を結びます。契約の内容は詳らかではないものの、結果的に上梓されたのは体系の導入部にあたる『精神現象学』のみでした。1806年二月には本文の印刷が開始され、未製本の枚葉紙はイェナ大学の講義（夏学期）でも用いられましたが、全体の印刷が完了したのは1807年四月初め。そのときすでにヘーゲルはフランス軍の侵攻で荒廃したイェナを離れ、バンベルクで *Bamberger Zeitung* の編集に携わっていました。同紙に本書の自著広告を掲載したのは六月末のこと。

本書の初版本はすべて同一の刷版です。有名な序論を含む前付部分は、本文四十八丁の印刷が完了したのちに組版・印刷されています。前付の最終折丁はもともと八葉から構成されていましたが、一部の例外を除いて現存するのは四葉のみ。うち三葉（第一・二・七葉）は序論の最後の三頁と続く誤植訂正三頁で、もう一葉（第八葉）は中扉。現存しない三葉（第三・四・五葉）は序論と本文における差替に用いられています。またこの差替についての指示を印刷した一葉（第六葉）は、目的を果たすとともに切除されたもの。

第八葉の中扉も差替葉で、もともとの中扉には「第一巻 意識の経験の学」と記されていたものですが、新たな中扉では「一 精神の現象学」に変更されました。ただし第六葉の差替指示では、切除されるべき元の中扉を“Schmutztitel”と呼んでおり、この語をハーフ・タイトル葉と解した当時の製本業者は少なくなかったはずですが、本書には最初からハーフ・タイトルはないため、切除するものが見つからず戸惑ったに違いありません。例えばベルリン国立図書館本 (Nm 8180) では差替用の中扉がハーフ・タイトルとしてタイトル葉の前に置かれ、元の中扉はそのまま残されました。本文三葉の差替は行われているにも関わらず、「意識の経験の学」と記した中扉の方は削除されず、二種類の中扉が連続して綴じられたものも少なからず見受けられます。上掲本は指示の意図通りに差替えられたもの。

同時代の厚紙装。一部に水染みが見られますが、保存状態は概ね良好。

## B-12. ヘーゲル《論理学》初版

HEGEL, Georg Wilhelm Friedrich. *Wissenschaft der Logik*. Nürnberg, bey Johann Leonhard Schrag, 1812-16.

¥1,980,000

8vo, three volumes, pp. xiv, xxviii, 334; vi, 282; (2), x, 403, (1) blank; a very nice clean copy in contemporary half sheep on marbled boards, lightly rubbed, corners worn, one of the joints partly cracked but sound, traces of title labels to the spines; contemporary ownership inscription to lower margin of title-page in each volume. Steinhauer 286 & 287.

序論として構想された『精神現象学』に続き、ヘーゲルがその哲学体系を本格的に世に問うた最初の著作。第一巻（客観的論理学）第一冊有論が1812年に、第二冊本質論がその翌年に刊行されたのち、第二巻主観的論理学（概念論）がさらに三年後に上梓され、ようやく完結にいたっています。

ヘーゲルはコレラのため急逝する直前、本書の改訂に着手し、第一巻有論についてはこれを完成しその部分は1832年に出版されています。この第二版では彼の絶筆といわれる二十頁に及ぶ序文がおかれ、大幅な改稿がなされています。

ヘーゲルの死後弟子達が直ちに編集を開始した十九巻本全集（1832-45年）は、今日の原典批判から見れば多くの問題を含むものの、ノートにもとづく「歴史哲学」「美学」「哲学史」などの講義を含み、『エンツィクロペディー』にも同様の「補遺」を加えるなど、ヘーゲルの思想の全貌を明らかにした極めて重要な版でした。この版で第三・四・五巻に収録された『論理学』は高弟フォン・ヘニングが編集したのですが、「最後の手」を重視し有論については改訂第二版を、本質論以降については初版の本文を採用しています。この折衷的な解決法は一世紀以上のあいだほとんど批判的な吟味を受けなかったといつて良いでしょう。一つの原因はこの弟子達の全集本が第二次大戦後にいたるもグロックナー版として流布したことにあります。しかし、新たな編集を企てたラッソン（1923年）あるいはホフマイスター（1948年）もこれを踏襲し、広く普及したテオリー版（1969年）も同様です。ヘーゲルみずからの改訂が未完に終わったとはいえ、それは些細な字句



の改訂にとどまるものではなく、構成にまで及ぶものであったこと、またヘーゲルの思惟の発展がその死の直前まで決して止まることがなかったこと、これらを考慮すると、新たなアカデミー版全集で初版ならびに改訂第二版のテキストがそれぞれ独自の存在価値をもつものとして個別に編纂されたことは当然の帰結といえるでしょう。

稀少。同時代の羊革装、製本に軽微な傷みはあるものの保存状態は良好。

### B-13. ヒューム《論文集》初版

HUME, David. *Essays and treatises on several subjects*. London, printed for A. Millar; and A. Kincaid and A. Donaldson, in Edinburgh, 1753.

¥770,000

12mo, four volumes; pp. (4), 331, (1) blank; (4), 259, (1) "A Note to page 180"; (6), 253, (3) advertisements; (4), 304; occasional light foxing and spotting, mild browning to the initial and the last few leaves of each volume, faint dampmark to upper corner of the second volume (visible in the last leaves touching text); bound in contemporary calf, spines gilt in compartments, lightly rubbed, corners and spine ends worn, joints split but sound, edges darkened; ownership initials to the upper corner of the initial page of text (partly erased), lithographed armorial bookplate of Baron Belper on pastedown of each volume. Jessop p. 5; Todd 1753-56 (issue a, a, a, a).

スコットランド啓蒙思想を代表する哲学者の一人であり、その懐疑論によってカントをはじめとする後世の思想家に大きな影響を及ぼしたデヴィッド・ヒュームは、最初の主著 *A Treatise of Human Nature* (1739-40) が「印刷機から死産した」のち、筆を改めてその第一部知性論と第三部道徳論とを *Philosophical Essays concerning Human Understanding* (1748) ならびに *An Enquiry concerning the Principles of Morals* (1751) として再び世に問うています。

また 1741 年から翌年にかけて上梓された *Essays, Moral and Political* では文芸・美学の領域にも踏み込み、*Political Discourses* (1752) では経済・政治に関する鋭い考察を展開しましたが、この二つは *Treatise* では予告のみに終わった「政治論」・「批評論」に該当するとも見做し得るでしょう。

*Treatise* 以降に発表されたこれら四著をまとめたものが、1753 年の *Essays and Treatises* です。これをヒューム自身、自らの思惟を十全に示したいいわば自選全集と考えていたことは、再版のたびに増補・改訂を重ねて 1776 年死去の直前まで筆を加え続けた事実にも明らかでしょう。

上掲は *Essays and Treatises* 初版の中でも、最初の発行形態と目されるもの。この 1753 年版は書誌的にはもともと、四つの著作の既刊単行本をまとめ、タイトル葉を差替えて再発行したのですが、第一巻 *Essays, Moral and Political* については新版（第四版）の印刷が（既刊第三版のための）差替えタイトル葉の印刷に先行し、トッド (William Todd, "David Hume. A Preliminary Bibliography" in *Hume and the Enlightenment*, 1974) はこの新版を第一発行としています。第二巻は *Philosophical Essays concerning Human Understanding* 第二版 (1750) の、第三巻は *An Enquiry concerning the Principles of Morals* 初版 (1751) の、第四巻は *Political Discourses* 第二版 (1752) のそれぞれ異発行であり、各版の残部を流用して新たなタイトル葉に差替えたものです。

第一発行本の在庫が尽きるとともに第二巻以降も再版がなされています。第二巻は 1755 年九月に新版（第三版）が印刷され、同様に第三巻の第二版は 1753 年十月印刷、第四巻の第三版は 1754 年に上梓（第二巻第三版については翌 1756 年の刊記）。したがって出版者の在庫状況に応じて各巻の発行形態が混在することとなり、第一発行本の四巻揃いは現存稀れです。

同時代の牛革装。やや傷みはありますが補修は施されておらず、当初の趣きを伝えるもの。第二巻には巻末にかけて軽微な水染みが見られます。

### B-14. フィオーレのヨアキム《黙示録註解・十弦琴》初版

IOACHIM FLORENSIS. *Expositio magni prophete Abbatis Joachim in Apocalipsim. Cui adiecta sunt, eiusde[m] Psalteriu[m] decem cordar[um] opus pl[ur]ipe diuinu[m], Lectura ite[m] perlucida in Apocalipsim Reuere[n]di magistri Philippi de Mantua. Uenetijs, in calcographia Francisci Bindoni & Maphei Pasyni sociorum impressum; expensis vero heredum Octauiani Scoti, 1527, die vero xvii mensis aprilis.*

¥880,000

4to, leaves (32), 280, (11) *Tabula, colophon & Registrum*, (1) blank; title printed in red and black within three woodcut borders and a bishop's coat of arms with initial F. E. in woodcut at bottom, borders repeated at the beginnings of the *Expositio* (with title printed in red) and of the *Psalterium decem*; several large illustrations and diagrams in woodcut in

*text, some woodcut initials on criblé background; light thumbing and dampmarks to the initial few leaves, with their edges creased and chipped at margins, a paper repair to the upper margin of title-leaf (no loss), light waterstaining to the last several leaves, occasional light browning and sporadic foxing; bound in contemporary calf, covers panelled in blind, centre- and cornerpieces in blind, ties missing, sometime rebaked and recornered; overall a well-thumbed, but good attractive copy with wide margins (some leaves with deckle edges); occasional contemporary manuscript marginalia, library stamp of the Jesuits in Marseille to the title-page. Adams B1940; Essling II. 653-4; Sander 3603; EDIT16 CNCE23221.*

フィオーレのヨアキムは十二世紀のシトー会修道士。1135年頃カラブリアのチェリコに生まれ、父と同じくコゼンツァの宮廷で公証人となったのち、パレルモでシチリア王の宮廷に仕えますが、回心して世俗を捨て、エルサレム巡礼から帰ると隠者となります。その後シトー会に加わって聖職者となり、コラッツォの修道院長に任ぜられたものの、これらはいずれも自らの意思に反することだったと伝えられます。彼は自らの聖書研究と著書執筆のため、院長の職責を免除するよう教皇に願い出ており、1188年六月ようやく職を解かれています。翌年からコゼンツァに建設を開始したフローレ修道院は、ヨアキムの修道院改革の理想を具現化したものでした。

ヨアキムはその預言によって生前から高名でした。英国王リチャード一世や神聖ローマ皇帝ハインリヒ六世も彼の言葉をもとめてヨアキムを訪ねたとされます。ルキウス三世から「啓示により見たままに」著述する許可を得たヨアキムは、1183年から翌年にかけてカザマーリの修道院に籠り三つの主著の執筆を開始していますが、推敲を重ねた末生前に完成されたのは、第一部にあたる『新・旧約聖書の調和について』 *Liber de Concordia Novi ac Veteris Testamenti* のみでした。ヨアキムの特異な釈義学と歴史神学が端的に提示されたこの著作は、教皇イノケンティウス三世の裁可を得るべくヴァティカンへ送られました。

1527年ヴェネツィアのフランチェスコ・ビンドーニが刊行したこの版は、ヨアキムの三つの主著の残る二つ、すなわち『黙示録註解』と『十弦琴』 *Psalterium decem chordarum* とを収録しています。『黙示録註解』は「疑いも無くヨアキムの傑作である。冗長で難解だが、しかし体系的に組織され巧みに構成された歴史神学が、聖書の最後の、そして修道院長にとっては最も深遠な巻の逐語的註解として展開されている。ヨアキムの先にもあとにも『ヨハネの黙示録』の註解は数多あり、同じぐらい長いより長いものもあるが、ヨアキムの註解より重要なものはない」(バーナード・マッギン)。また三部作の中でも「他の二作よりやや遅く着手した『十弦琴』は聖霊降臨祭の日の幻視の産物であり、『詩篇』の註解と、三位一体の神秘に関する論考の間に位置する。ヨアキムは、御父に捧げられ、琴の形象 (*figura*) を論ずる最初の巻をカザマーリで終えたと述べている。御子に捧げられた第二巻は『詩篇』を構成する百五十という数の神秘的な重要性を検討している。そしてごく短い、聖霊に捧げられた第三巻は詩篇の唱え方を論じている。第二巻・第三巻は二年ほど遅れて、1187年頃までに完成されている」(同上)。

ヨアキムの歴史神学は世界の歴史を父と子と聖霊の三つの時代に区分し、新たな聖霊の時代が将来すると預言することで信仰の歴史的発展を唱え、アウグスティヌス以来の終末論に見られる、閉じられた伝統的歴史観を打破するものとなりました。そしてアンチキリストが跋扈する現代を経て、新たな時代には霊的な修道会がこの世を支配することになるというヨアキムのヴィジョンは、中世の神秘主義や異端思想に甚大な影響を及ぼしたばかりでなく、近代以降も教会改革運動の重要な源泉となり続けています。

彼の歴史思想は没後直ちに広まることはありませんでしたが、十三世紀中葉フランシスコ会に伝わって先鋭化し、1256年には事実上異端の烙印を押されることとなります。聖霊派は、フランチェスコの説く清貧をついには否定しきつたヴァティカンこそがアンチキリストであると断じ、ヨアキムの名を借りた多くの偽書があらわれることとなりました。

1527年版『黙示録註解』を上梓したフランチェスコ・ビンドーニとその義父マッフェオ・パジーニは、十六世紀前半のヴェネツィアを代表する印刷工房に数えられます。ビンドーニが父アレックスドロの印刷事業を受継いだのは1523年。これがパジーニと共同の事業となるのはその翌年のことで、以後1551年まで少なからぬ刊本が世に送り出されています。彼らの商標は大天使ラファエルですが、その刊本にトビアがラファエルの手を引く木版商標が登場するのは後年のことか。1527年に刊行された本書のタイトル頁は黒赤二色刷り。三方は木版飾り枠に囲まれ、下端には司教の紋章が木版で示されていますが、同じ紋章は『黙示録註解』本文冒頭の木版飾り枠にも見られ、いずれも“FE”のイニシャルが加えられています。これは枢機卿ヴィテルボのエギディウスの紋章。本書の巻頭には編者であるアウグスチノ会修道士、シルヴェストロ・メウッチ(ないしメウッチョ)がエギディウスに宛てた献呈の辞が置かれています。教会改革に積極的だった枢機卿エギディウスはカバラに深い関心を抱いていたことでも知られますが、アウグスチノ会の精神的支柱であり1507年から総長の任にありました。

ヨアキムの著作をすべて上梓することを目指したメウッチは、1516年の『キュリロス書註解』、『エレミヤ書註解』ならびに1517年の『イザヤ書註解』をヴェネツィアのソアルディから刊行、ただしこの三つは今日

いずれもヨアキムの真作とは考えられていません。さらに 1519 年には『新・旧約聖書の調和』を刊行しています。これらの出版の背景にはアウグスチノ会における聖堂参事会と隠修士会との対立が指摘されますが、『黙示録註解』はエギディウスの徳意に応じて上梓されたもの。

これらのうち、『イザヤ書註解』1517 年版、『エレミヤ書註解』1525 年第二版、ならびに上掲『黙示録註解』1527 年版については、偽書とされる *Praemissiones* が加えられています。それは真作『形象の書』*Liber Figurarum* で展開された預言の図像化の「アンソロジー」（リーヴズとヒルシュ＝ライヒ）であり、かつてはむしろ *Praemissiones* の方こそ真作と考えられていました。この版では二つに分け、『黙示録註解』と『十弦琴』それぞれの本文の前に置かれています。リーヴズらによれば伝存する写本では多いもので十一の図を収録しますが、刊本ではそれより少なく、三つの重なり合った輪 (fol. A3r)、*Misterium Ecclesiae* (fol. A3v) や七頭の竜 (A4v)、プサルテリウム (FF2r)、エゼキエルの車輪 (FF2v) の五点、それに七つの封印やトランペットなどを一頁に収めた図 (A4r) も含まれます。驚の図も『十弦琴』の本文中に見られる (fol. LL4r) もの、付随するテキストは写本のそれと異なります。

なお本書には日付の異なる三つの奥付があり、『黙示録註解』末尾のそれは 1527 年二月七日付け。『十弦琴』本文末尾では同年三月十八日、『十弦琴』目次末尾（最終葉）の奥付は同年四月十七日となっています。

同時代の牛革装、背などに補修。巻頭数葉に軽微な汚損があり、タイトル葉上部余白に補修があります。

### B-15. 偽フィオーレのヨアキム《教皇預言集》レジセルモ編初版

[Ioachim Florensis, pseudo-]. *Vaticinia siue prophetiae Abbatis Ioachimi & Anselmi Episcopi Marsicani, cum imaginibus ære incisæ, correctione, et pulcritudine, plurium manuscriptorum exemplarium[m] oper[e], et uariarum[m] imaginum[m] tabulis, et delineationibus[s], alijs antehac impressis longe præstantiora. Vna cum præfatione, et adnotationibus Paschalini Regiselmi. Venetiis, apud Hieronymum Porrum, 1589.*

¥418,000

*4to, 70 unnumbered leaves, lacking the terminal two blank leaves; engraved title, engraved portrait of Joachim (fol. c4r), 30 engraved illustrations for Vaticinia and 3 other engraved illustrations in text; text in Latin and Italian except the epistle dedicatory by the editor in Latin; a few minor stains to the initial leaves, mild browning and occasional light foxing, two text leaves (B2.3) with some creasing affecting text and the illustration (no loss); a good copy in early eighteenth century vellum on boards, manuscript title to the spine, covers lightly warped. Adams J213; Landwehr (Romantic) 415; EDIT16 CNCE35558.*

フィオーレのヨアキムの名のもとに広く流布した預言集。ヨアキムはアンチキリストが跋扈する現代を経て聖霊の時代が到来すると唱え、霊的な修道会による導きを預言したことで有名ですが、その影響は十三世紀中葉のフランシスコ会で顕在化し、聖霊派の思想的柱梁となりました。フランチェスコの清貧の理想をそのまま具現化しようとした聖霊派は、自らをヨアキムの説く霊的教会の先兵と見做し、現実のヴァティカンをアンチキリストと断じる一方で、未来の救世主たるべき天使的教皇の出現を予期しました。

この『教皇預言集』は聖霊派がヨアキムの名を借りて著した少なからぬ文書の一つで、ヨアキムがこの世を去ってほぼ一世紀後に成立したと考えられます。聖霊派は 1294 年、ケレスティヌス五世によってフランシスコ会の新会派として認められたものの、教皇はわずか五ヶ月で退位。後継ボニファティウス八世の弾圧を受けた聖霊派はギリシャに逃れています。三十の預言から構成される『教皇預言集』のうち、現在後半に位置する十五の預言はニコラウス三世からベネディクトゥス十一世に至る各教皇の肖像、ならびに将来すべき天使的教皇の一群を描き、標語とともに示したもので、1304 年に死去したベネディクトゥスの在世時に成立したと考えられます。前半に位置する十五の預言はこれより時代が下り、弾圧された聖霊派残党によってトスカナ地方で書かれたもので、マルシコの司教アンセルムスを著者に擬しています。マージョリー・リーヴズは 1356 年以前の成立と推定。これもニコラウス三世に始まる歴代教皇の図像集ですが、第十五図は竜の姿をしたアンチキリストとして描かれ、後半の預言とは対比的に「未来にあらわれるであろう一連の天使的牧者を思い描くことはない」（リーヴズ）。

十四世紀後半から二つの預言集はまとめられ、多くの写本によって流布しています。刊本は 1515 年ボローニャで上梓、五年後ヴェネツィアで再版が登場しました。いずれも教皇の図像とヨアキムの肖像とを木版挿画で収録しています。またイタリアではナポリで 1585 年に銅版挿画入り羅伊対訳版が刊行されました。この 1589 年ヴェネツィア版は、パスカリーニ・レジセルモが多くの写本・刊本を校訂し、イタリア語対訳を加えたもので本文には多くの異文が加えられています。後半はレジセルモによる註解。なおリーヴズは「レジセルモが三つの預言文書を本書の末尾に加えた」云々と記していますが、これは正確ではなく、1589 年版に見られるのはパルメリウスの *Rota* のみ。1625 年パドヴァで再版本が刊行された際、エギディウス・ポロヌスとヨアキムとに擬せられるグレゴリウス十四世までを描いた二種の教皇預言が書肆の手で追加されており、

リーヴズの言及は 1625 年版（ないし 1646 年ヴェネツィア再版）に依拠するものでしょう。

十八世紀前半と思しきヴェラム装。1589 年版には一部の枚葉紙について組版が異なるヴァリエントが存在し、EDIT16 は「指紋」の異なる A・B 二種を区別しています。上掲は B 種。本来巻末の二葉は白紙ですが、上掲本では製本の際に切除されたと見られ現存しません。

#### B-16. ユスティノス《著作集》初版

IUSTINUS MARTYRUS. [Opera in Greek]. Ex Bibliotheca Regia. Lvtetiae, ex officina Roberti Stephani, 1551.

[Bound with:]

Opera omnia, qvae adhvc inveniri potvervnt, id est, qvae ex Regis Galliae Bibliotheca prodierunt. Ioachimo Perionio interprete. Parisiis, apud Iacobum Dupuys, 1554.

¥704,000

*Folio, two works bound in one, the second work in six parts; pp. (8), 311, (4) variants, (1) blank; pp. (13), (3) blank, 127, (1) blank; 67, (1) blank; 35, (1) blank; 91, (1) blank; 80; 49, (1) privilege, (2) blank, (22) index, (1) errata, (1) blank; Robert Estienne's woodcut basilisk device (Ph. Renouard 471; Schreiber B2) on title of the initial work; Du Puy's woodcut device (Ph. Renouard 278) on title of each part of the second work; woodcut headpieces and initials; light soiling to the title-page and minor staining by damp to upper corner of the initial work, bound in late seventeenth-century brown calf, gilt oval centerpiece to the covers, gilt ornament to the spine compartment, manuscript title label to the spine, some scratches to the covers, lightly rubbed and worn (rebacked, original spine laid down, endleaves renewed). Adams J494 and J495; Renouard p. 79; Schreiber 107; Mortimer (Harvard French) 335.*

殉教者ユスティノスはサマリアの人。生年は定かではありませんがローマで殉教したのは西暦 165 年前後と推測されます。プラトン哲学に傾倒したのちキリスト教徒となった彼は、ギリシャ哲学とキリスト教とに共通のロゴスを見出し、真の哲学としてキリスト教を称揚するとともに、教父哲学の基礎を形成すべき護教論を展開しています。ユスティノスの著書は多くが散逸し、二つの『弁明』と『トリュフォンとの対話』とを収録する唯一のギリシャ語古写本（パリ国立図書館蔵）は欠落などの問題点が少なくありません。

この 1551 年パリ版はギリシャ語原典初刊本。出版者は学匠印刷者として名高いロベール・エティエンヌであり、本文は王立図書館所蔵のギリシャ語写本に基づき校訂したものです。ロベールはすでにエウセビオスの教会史原典版（1544 年）、多くの異読を採録したギリシャ語新約聖書（1550 年）を上梓しており、ユスティノスはこれらに続く古代教会文献の公刊となるものでした。とはいえプロテスタントを奉じたロベールは、ソルボンヌとの軋轢などから 1550 年ジュネーヴへ逃れます。このユスティノスはパリの印刷工房を引き継いだ弟シャルルが完成、上梓に至らせたものでした。

合綴されているのは三年後に刊行されたラテン語訳ユスティノス著作集。アリストテレスなどの翻訳でも知られるペリオンの手になり、数多くの註釈が施されている点も重要です。

刊行年代が近いこともあり、これら二種のユスティノス刊本が併せて一冊に製本されている例は少なくありません。上掲本は十七世紀後半の牛革装（背に補修）。

#### B-17. ニーチェ《悲劇の誕生》初版

NIETZSCHE, Friedrich. Die Geburt der Tragödie aus dem Geiste der Musik. Leipzig, Verlag von E. W. Fritsch, 1872.

¥660,000

*8vo, pp. iv, 143, (1) imprint; light marginal dampmark to the lower corner of the last two gatherings, faint browning to the initial and the last leaves, title with a short clean tear to the upper margin; a very good copy in half sheep on marbled boards of early twentieth century, leather title label to the spine with letters in gilt, lightly rubbed along extremities and at spine ends. Jung 252; Schaberg 20.*

ニーチェの最初の主著である『悲劇の誕生』は 1872 年初刊。ライプツィヒの書肆フリッチュと著者との契約は一千部印刷となっていました。1871 年十二月末に刷られた実際の部数は八百。翌年一月初めに販売されはじめたものの、フォン・ヴィラモヴィッツ＝メレンドルフの痛烈な批判が災いして古典学界からは黙殺されるなど、売行きは芳しいものではありませんでした。二年後、まだ数百の残部があるにも関わらずフリッチュは新たに第二版七百五十部を印刷しました。著者は再版にあたって本文にわずかながら変更を加えており、初版で百四十三頁だった本文は一頁だけ増えています。とはいえこの第二版は直ちに発行された訳で

はありませんでした。

ニーチェのその後の著作も出版したフリッチュは、1874年当時破産の危機に瀕しており、印税の遅れに嫌気がさしたニーチェは『反時代的考察』の第三部をケムニッツのエルンスト・シュマイツナーから印刷し、『考察』最初の二部もフリッチュからシュマイツナーが購入しています。塩漬けにされた『悲劇の誕生』は1878年八月になってようやくフリッチュの手を離れますが、このときもまだ初版の残部は百七十五冊あったといわれます。シュマイツナーは当初タイトル頁を差替えて発行する予定でしたが、現存するものを見る限りでは第二版のタイトル頁に、刊記のみを変更するラベルを貼って販売しています。

しかし六年後、『ツアラトウストラ』の刊行をめぐってニーチェとシュマイツナーとの協調関係も破綻し、訴訟に持ち込まれます。ここに再び登場したのが最初の出版者フリッチュでした。フリッチュは1886年八月に『悲劇の誕生』残部を買い戻しています。この残部は第二版（五百七十六部）だけでなく、恐らくシュマイツナーが一冊も売らなかった初版も含んでいました。フリッチュは約三ヶ月後、ニーチェによる十六頁の新たな序文「自己批判の試み」を巻頭に加え、タイトル頁を差替えた本書を再発行しました。「音楽の精神からの悲劇の誕生」という原題を「悲劇の誕生、あるいはギリシャ人とペシズム」と改めた、この新たなタイトル頁は初版・第二版とも共通のものが用いられており、フリッチュは明らかに二種を区別せずに販売しています。初版・第二版合計で恐らく七百五十部ほどあった残部は1893年には八十部まで減っており、翌1894年に第三版が刊行されました。

上掲は初版第一発行、1878年までに販売された約六百部の一つ。製本は二十世紀前半の半革装。

#### B-18. プルタルコス《対比列伝・倫理論集》仏訳

PLUTARCHUS. Les Vies des hommes illustres grecs & romains, comparees l'une avec l'autre, translatees de grec en françois. A Paris, de l'imprimerie de Michel de Vascosan, 1559.

[Together with:]

Les Oeuvres morales & meslees, translatees de grec en françois, reueuës & corrigees en ceste troisième edition en plusieurs passages par le translateur. A Paris, par Michel de Vascosan, 1575.

¥1,650,000

Folio, together two volumes bound in four; leaves (8), 734, (25) Table alphabétique, (1) privilège; (5), 668, (2) privilège, (86) Table alphabétique; the second work with blank leaf a6 in the preliminaries cut away, but the blank 204 remains intact; several woodcut headpieces and some woodcut initials in text; light dampmarks to the initial and the last gatherings of each volume, the first gathering of the initial volume partly loosening and protruded (creased, edges lightly frayed), tiny round wormhole in the last few leaves of vol. 1, a few initial leaves of vol. 2 with minor tears on lower margin and lightly creased; uniformly bound in plain vellum on boards of late eighteenth century, leather title labels on spines (worn), edges gilt. Cioranescu 2484; Adams P1620; Mortimer (Harvard French) 441 & 442; En français dans le texte 57.

フランス文学史に大きな影響を及ぼした、ジャック・アミヨの手になるフランス語訳プルタルコス。

ムランに生まれたアミヨはパリに学び、エヴァグリウスに師事してギリシャ語に習熟したのもこの間のことでした。ブールジュ大学で古典語教授として教壇に立ったのち、イタリアに遊学して古典のテキストを渉猟しています。ヘリオドロスの『エチオピカ』仏訳はイタリアへ赴く以前の業績ですが、江湖に迎えられ後にラシーヌへも影響を与えています。アミヨによる古典作品の翻訳は『ダフニスとクロエ』なども広く知られるものの、その筆頭にあげられるのがプルタルコスです。

『対比列伝』、『倫理論集』という二つの浩瀚な著作を訳すにあたり、アミヨは新たなオリジナルの創造を行なったといっても過言ではないでしょう。原典の逐語訳とは全く異なり、古語やラテン語、イタリア語からの妄りな借用を避けつつ、平明かつ流麗なフランス語散文を生み出すことに成功しています。二つの翻訳はフランス語に明晰さと論理性、生命力を同時に与えた業績と称えられ、アミヨがラブレーあるいはカルヴァンに比肩する存在と見做されるのもこの所以です。同時代のみならず後世においてもこの仏訳プルタルコスに対する讃辞は後を絶つことがなく、その広汎な影響はフランス人文主義が収めた最大の成功に数えられます。

フランス国王アンリ二世に献呈された『対比列伝』は上掲が初版。『倫理論集』は1572年に刊行され、二年後に八折版も上梓されています。いずれもヴァスコザンの刊行であり、上掲1575年版は改訂第三版。

ヴァスコザンによる印刷は十六世紀中葉パリ刊本の洗練美を体現した傑作です。この二つの版も木版飾り文字など装飾はごくわずかであるにも関わらず、活字のみで構成されたタイトル頁や均整のとれた版面は特筆に値しましょう。

二巻四冊は十八世紀後半のヴェラム装で統一されています。水染みなど軽微な汚損が散見するほか、『対比

列伝』巻頭の折丁にやや傷みが見られるものの、総じて保存状態は良好。

### B-19. ポステル《世界の和合について》初版

POSTEL, Guillaume. De orbis terræ concordia libri quatuor, multivga ervditione ac pietate referti, quibus nihil hoc tam perturbato rerum statu uel utilius, uel accommodatius potuisse in publicum edi, quibus æquus lector iudicabit. [Basel, Johann Oporinus, 1544].

¥880,000

*Folio, pp. (8), 427 (i.e. 447), (1) blank; eight- or nine-line historiated woodcut initials at the beginning of Epistola nuncupatoria and Book 1, smaller woodcut initials at the beginning of Book 2 to 4; occasional Greek and Hebrew letters; minor printing fault to the initial three words of the first line on p. 59 (sense traceable); initial two leaves lightly creased, occasional faint foxing and browning, but a very good sound copy, bound in eighteenth-century English calf, covers panelled in blind, rebacked with the original red morocco title label restored, corners repaired, covers with light soiling and scratches. VD-16 P4481; Adams P2020; Sabin 64524; Graesse V. 423; Cioranescu 17815; Smitskamp 242; Postel pp. 35-37.*

ギヨーム・ポステルの主著であり、キリスト教世界の再構築を目指すその壮大な企図を明らかにした大著。

「ポステルの生涯の目標は『和合』という一語で表された。これは彼の最も重要な著作の標題において鍵となるものであり、彼の思惟の基調を成すものであった。この言葉の世俗的な意味は人類の平和を指す。だがポステルにとってこの語は様々な意味が絡み合い、思想的な複合体の全体像を示すものだった。彼はその直接的な政治的意義を知りつつも、実のところは十字軍の主唱者であり、単なる世俗的な平和主義者ではなかった。『世界の和合について』は宣教師のための手引書であって、『和合』には宗教的な意味がある」（ブースマ）。

世界の改宗のための宣教計画を開陳した本書は四部からなり、哲学的論拠に基づきキリスト教の教義を根拠付けた第一部に続き、独自の翻訳による『コーラン』からの引用を数多く含むイスラーム批判（第二部）、世俗・宗教の二つの法に依拠しながら世界共通の原理を導き出し（第三部）、虚偽の信仰を平和裡に真の信仰へと変える道筋を示しています（第四部）。

「神はその愛を注ぐのに分け隔てなく、『真の宗教』もあらゆる人々を対象に含むものとなる。ポステルは普遍的な宗教と普遍的な国家の必要性を訴えた最初の人物の一人である。神のもとに統一化された世界を築こうとするポステルの計画は、『普遍主義の父』とされるジャン・ボダンの著作より二十年以上も先行するものだ」（マリオン・カンツ）。

ポステルは本書の第一部のみをパリのピエール・グロモールから 1543 年に自費で刊行、また一部を敷衍した小著 *Sacrarum Apodixion* ならびに *De Rationibus Spiritus Sancti* の二点も同年に上梓しました。彼はパリ大学に本書を提出して認可を求めましたが得ることなく、バーゼルのヨハン・オポリヌスから全四部が刊行されたのは翌年のこと。

十八世紀の牛革装（背に補修）。保存状態は良好。

### B-20. トロンベタ《アリストテレス『形而上学』註解》ほか

TROMBETA, Antonius. Opus in Metaphysica[m] Arist[otelis] Padue in thomistas discussum: cum quaest[io]nibus perutilissimis antiquioribus adiectis in optima[m] seriem redactis: & formalitates eiusde[m] cum additionibus & dilucidatione diligenti excolte. Venetijs, [Jacobus Pentius], 1504.

[Bound with:]

ZANE, Bernardus. Tres methaphisicæ qvestiones. De entis analogia. De indiuiduationis principio. De Vniuersalibus. Impressum Venetiis, per Iacobum Pentium de Leuco, nono kal. Ianuaris, 1505.

[Bound with:]

PAULUS Soncinas. Acutissime questiones metaphysicales. Venetijs, mandato et sumptibus heredum Octauiani Scoti, p[er] Bonetum Locatellum, die secunda maij, 1505.

¥528,000

*Folio, three works bound in one; leaves 111; (44); (4), 207, (1); the first and the third work printed in gothic letter in double column, the second work in roman type; some woodcut capitals in text; the initial work with the last blank leaf cut away and with one or two minor wormtracks to lower corner of a few leaves, occasional mild spotting, but generally a very good copy, bound in limp vellum of the seventeenth century, manuscript title to the spine, joints worn, top of spine chipped and worn, light soiling to the covers, spine darkened. EDIT 16 CNCE33625; CNCE33630; CNCE4169.*

十六世紀初頭のヴェネツィア刊本三点の合綴本。いずれも質疑応答の形式でなされた形而上学的考察で、アントニウス・トロンベタ（トゥベタ）の『アリストテレス「形而上学」註解』とベルナルドゥス・ザーネによる『形而上学三論』ならびにパウルス・ソンキナス（パオロ・バルボ）の『形而上学質疑』。

十五世紀後半から約一世紀にわたって隆盛を見た、パドゥアのスコトゥス学派の筆頭に掲げられるトロンベタ（1436-1517）はフランシスコ会士。1467年に神学博士となり、1469年から1511年までパドゥアで形而上学を講じました。当時の主流であったアヴェロエス的なアリストテレス理解に反対し、アゴスティーノ・ニフォに対して厳しい批判を展開したことで知られます。トロンベタはアリストテレスの『形而上学』をめぐる質疑を *Quaestiones quodlibetales metaphysicae* として纏めていますが、ロールによればこれに新たな質問を追加し、註解書としての体裁を整えたものが本書。1502年ボネトゥス・ロカテルスが刊行したヴェネツィア版があり、上掲1504年ヴェネツィア版は第二版にあたります。印刷・出版者の名は記されていませんが、1495年以来この地で印刷に携わっていたジャコモ・ペンツィオの刊本と目されます。

ベルナルド・ザーネはヴェネツィア貴族の出身。教皇庁書記長に任ぜられ、さらに1503年にはスパラート大司教となりました。1524年歿。「存在の類比」・「個体化の原理」・「普遍概念」の三つの問題をめぐる形而上学的考察は、上掲1505年ヴェネツィア版が初刊にあたり恐らくは唯一の版。これもトロンベタと同じくジャコモ・ペンツィオの刊本。

パオロ・バルボはソンキーノの貴族の家に生まれたドメニコ会修道士。形而上学と神学をミラノ、フェラーラ、シエナ、ボローニャで講じ、1494年には神学博士の学位を与えられるとともにクレモナの修道院長に任ぜられたものの、同年八月に急逝しています。ヨハネス・カプレオールの『命題集註解』の綱要を編纂したことからも明らかのように、バルボはトマス主義に属し、上掲はその主著と目されるアリストテレス『形而上学』講釈。ハインが著録する1496年版は恐らく実在せず、ヴェネツィアのベヴィラクアが1498年に刊行したもの（HC 12496\*；Goff P-208）が初版。1505年スコトゥス版は第二版に相当し、その後1526年、1576年、1588年にもそれぞれ再版が上梓されていることから十六世紀を通じて高い評価を受けたことが伺われます。

三点いずれも稀少。おそらく十七世紀のヴェラム装。